

記録

フィルム
カラー／32分
日・英語版

- 企画
文化庁
- 協力
国立芸芸館
新潟県立近代美術館・
万代島美術館
よこてフィルムコミ
ッション
日本工芸会
亀倉雄策資料室
水上 寛

スタッフ

- 製作
山本孝行
- 脚本・演出
土井康一
- 演出助手
細矢知里
- 撮影
藤原千史
- 撮影助手
鈴木一朗 今野聖輝
邊母木伸治
- 照明
野本敏郎
- 照明助手
池田義郎 小岩 強
- 録音
藤林 繁 高木 創
- 効果音
帆苅幸雄
- 編集
石井香奈江
- ネガ編集
幸地甫之
- 音楽
坂田 学
- スチール
辻本しんこ
- 録音スタジオ
アオイスタジオ
- 現像
IMAGICA EMS
- ナレーター
篠原ともえ

文部科学省特選

2024年教育映像祭最優秀作品賞・文部科学大臣賞

映文連アワード2024ソーシャル・コミュニケーション部門優秀賞

身近にある草木、野山の景色、そして四季の移ろいから受け取る心情を植物染料による美しい色糸で織り上げる村上良子（むらかみりょうこ）は、その高度な技術と斬新な意匠の作品によって、2016年（平成28年）重要無形文化財「紬織」の保持者（人間国宝）に認定された。

映画は、紬織着物（つむぎおりきもの）『月あかり』の制作工程を追う。



紬織は、古くから日本各地に伝わる絹織物である。江戸時代以降、一般庶民に広く着用され、素朴な普段着として親しまれてきた。近年は芸術的な価値が高められ、現代的な感覚溢れる個性豊かな作品が生まれている。

紬織の代表的な作家の一人である村上良子は、異なる色の緯糸（ぬきいと）を交差させながら文様を描いていく「綴織（つづれおり）」という手法を駆使し、これまで縞や緋が主流だった紬織の世界に絵画的表現を持ち込むことに成功した。

秋田県横手市に生まれ、東京造形大学でグラフィックデザインを学んだあと、1977年（昭和52年）より染織家・志村ふくみ氏（「紬織」の人間国宝）に弟子入りし、5年に及ぶ修行ののち独立。京都に工房を構え、紬織の作家の一人として活動を開始する。

映画は、秋の月を題材に、意匠構想から多様な植物を原料とした糸染め、製織、仮縫いに至るまで、全てを一人でおこなう村上の手仕事を丹念に記録した。